



2006年11月30日

日本応用心理学会ニュースレター

——コミュニケーションの広場——

No. 16

新体制の発足にあたって

理事長 岡村 一成

会員の皆様には、各方面でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、このたびの役員選挙により、今期も理事長を務めさせていただくことになりました。伝統ある日本応用心理学会の理事長として2期連続で選任されましたことは、身に余る光栄であるとともに、責任の重大さを痛感しております。新役員の先生方はじめ、会員の皆様方のお力添えを得ながら、責任を果たして参りたいと思いますので、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

今期の役員体制につきましては、後のページに示しておりますが、常任理事数のスリム化により、各委員会では理事の先生方のご協力をいただいております。常任理事会では各委員会からの積極的なご提言を反映させながら審議し、学会の運営を図っていきたく考えております。各委員会とも、それぞれ課題を抱え検討しております。今後、会員の皆様にご満足いただけるような様々なご提案ができると思っております。

ところで、総会でもお話し上げましたが、本学会は、1933年(昭和8年)に設立され、第二次世界大戦中は活動を停滞しておりましたが、戦後1946

年(昭和21年)に、復興第1回大会が日本大学で開催されました。この大会が基準となっており、現在の第73回へとつながっています。復興後の大会は、年2回開催されておりましたが、現在のように大会を年1回開催するようになりましたのは、1958年(昭和33年)の第25回大会からです。それで、本年はこの復興第1回大会からみて、60周年の節目を迎えました。大変おめでとうございます。



そこで、この復興60周年を記念して、丸善株式会社出版事業部から、日本応用心理学会編『応用心理学事典』を刊行することになりました。本学会の多くの会員の方々にご執筆いただき、現在進行中です。07年1月に発行される予定ですのでご期待ください。

それでは、会員の皆様のご活躍と日本応用心理学会の発展を祈ってご挨拶いたします。

(東京富士大学)

目次

新体制の発足にあたって	1	各委員会の今期活動方針	5
第73回大会を終えて	2	事務局だより	8
国際応用心理学会・アテネ大会 (ICAP第26回大会)の報告	3	編集後記	10
		訃報	10

第73回大会 (於 文京学院大学) を終えて

(1) 大会の総括

大会準備委員長 柏木 恵子

9月9日(土)、10日(日)の二日間、日本応用心理学会第73回大会が文京学院大学本郷キャンパスで開催されました。幸い、好天に恵まれ残暑もそれほど過酷ではなかった(翌明け方、東京は例のない激しい雷雨でした!)ことも手伝って、大会は大過なく盛況裡に終えることができました。準備段階から会期中にかけての会員、参加者の方々のご協力に感謝しております。出版社からのご援助も例年以上に頂けたこともありがたいことでした。

大会の概要を数字で示しますと下記のとおりです。

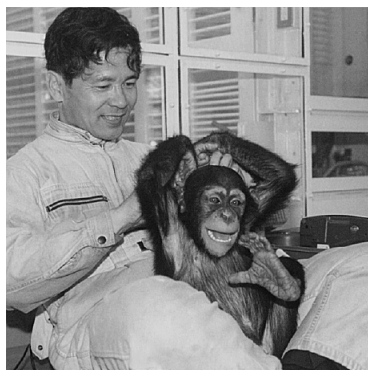
大会参加者総数 294人 (このうち名誉会員15人、学生会員36人)

シンポジウム	5件
ワークショップ	5件
ポスター発表	89件
学会研修会	2件
懇親会参加者	77人

このほか、大会の目玉の一つとして、京都大学霊長類研究所所長松沢哲郎教授による特別講演「進化の隣人ヒトとチンパンジー：子育ての親子関係」が行われました。チンパンジーの言語・認知機能についての実験的研究、アイとアムをはじめとする研究所で誕生し育てている親子関係についての研究、さらに西アフリカの野生チンパンジーについてのフィールド研究など、長年にわたる豊富なご研究成果を生き生きとした各種映像を駆使し、明快にして懇切なご講演をしていただきました。2時間半にも及ぶものでしたが、学会員のほか一般を含む多くの聴衆は時間の経つのも忘れてご講演に魅了されたことでした。

なお、大会前日に東京ガーデンパレスで理事会、引き続き理事懇談会が開かれました。現理事のほか、これまで本学会を支えてこられた名誉会員の方も加わって和やかな集いでした。名誉会員に加えて、長年会員として活躍された方を終身会員とする制度も、今大会で承認されました。また学生・院生の学会参加と発表を支援する制度も発足しました。老いも若きも勉学・研究に励む風土が整って、日本応用心理学会がさらに発展することを期待しています。

最後に、この大会は文京学院大学心理学科の教員と院生/学生の総力を挙げての運営でした。小さい大学とて授業や会議で多忙な中、事務局長の村井潤一郎助教授を中心



松沢・京大教授とチンパンジー・アムム君



懇親会の様子



会員総会の様子

に助手・副手、院生が一生懸命に準備・運営しました。原稿提出や印刷の進行の遅れ、さらに予想とは違うことが起こったりで、ご希望に添えないこともあったかと思いますが、どうぞご寛恕ください。大会期間中、学生・院生がいつものカジュアルな服装とは打って変わってスーツできびきびと働く姿は私には大変印象的でした。

(文京学院大学)

(2) 大会に参加して

白井清太郎

私は、本学会の大会に初めて参加し、ポスター発表を行いました。

本大会は若手研究者の発表・参加を促す支援策が整っており、私のような初参加の者が溶け込みやすい雰囲気であったと感じました。特に、大会準備委員会の先生が気さくに声を掛けてくださったことで発表前の緊張をほぐすことができました。

私は「移動中の意識内容が方向感覚に与える効果」と題した研究発表をさせていただきました。大会での発表までには紆余曲折がありましたが、多くの先生や先輩方のお世話になり、発表することができました。未熟な発表にもかかわらず多くの分野の方が見に来てくださり有益なご意見を頂きました。そのご縁である研究会にも参加することとなりネットワークを広げることができました。様々な企業や公的な研究所の先生方を含んだポスター発表では、一研究にとどまらず一般への応用も視野に入れて考察

されており参考にさせていただきました。こういった研究発表が多いことも応用心理学会の特徴であるように思います。松沢先生による「進化の隣人ヒトとチンパンジー：子育てと親子関係」という講演では部外者がなかなか知ることのできない研究所内でのチンパンジーと研究者の生活と研究、さらにアフリカにおけるフィールドでの生態調査の実態を垣間見ることができ、大変興味深いものでした。若手にとっての学会というのは松沢先生のいう「見習う学習」の場であり、大人のチンパンジーの木の实割りを見て学習するチンパンジーの子どもと私自身を被らせて講演を聞いていました。懇親会ではこの「見習う学習」を活用できませんでしたが、今後は能動的にコミュニケーションを取れるように頑張っていきたいと思います。こういった新たな視点の獲得、異分野との交流、ネットワーク拡大といった大会ならではの貴重な経験は私の活動の動機づけとなり糧になったと思っています。

(国土館大学大学院・修士課程2年)

国際応用心理学会・アテネ大会 (ICAP 第26回大会) の報告

(1) 日本応用心理学会企画のシンポジウムについて

国際交流委員長 蓮花 一己

この度、国際交流委員会が中心となり、ギリシャアテネでのICAP第26回大会において、日本応用心理学会企画のシンポジウムを実施しましたので報告します。

シンポジウムは「Pressing social problems in recent Japan and workable solutions (最近の日本における緊急の社会問題とその実現可能な解決法)」というテーマであり、教育臨床分野、社会心理、交通心理、犯罪心理という各分野から日本の抱える代表的な社会問題を提起して頂き、その解決法を探る目的で企画されました。信州大学の内藤哲雄先生と筆者が共同企画者となり、内藤氏の企画趣旨の説明に引き続いて、下記の4発表がなされました。

第一に、東京大学学生相談所の倉光修教授が「Bullying and harassment in Japan」と題して、日本社会(学校や企業等)に蔓延するいじめやハラスメント(セクシャルハラスメント及びアカデミックハラスメント)の実際について研究紹介を行いま

した。倉光氏は日本社会の文化的変容がこうした現象に及ぼす影響について説明し、さらに、その防止法や被害者への心理療法について発表しました。

第二の発表は、実践女子大学の垣本由紀子教授による発表「Was safety saga rolling away in public transportation in Japan」であり、最近の鉄道及び航空事故について紹介がなされました。とくに鉄道福知山線脱線事故の事例分析や航空機事故・インシデントの事例研究を通じて、事故原因の日本的な特徴について紹介されました。

第三に、「Post traumatic stress disorder following the Hokkaido Nansei-oki (South-West Coast) earthquake」のテーマで、横浜国立大学の藤森立男教授が発表しました。近年日本で発生した地震の説明に引き続いて、藤森氏は北海道南西沖地震後に実施されたPTSD調査研究について具体的な結果の紹介を行い、具体的なPTSDのリスク要因(性別や年齢など)を指摘しました。

第四の発表では、静岡県立大学の西田公昭助教授が「The activities of cultic groups to seduce young people who wander in their lives, and the psychological background」と題して、日本中を震

撼させたオウム真理教事件の紹介とその信者、脱会者への調査研究について説明しました。さらに、カルトにひきつけられる日本人の社会的、心理的背景について考察を加えました。

その後、指定討論者の長塚康弘名誉会員から、個々の発表者に対して、各々の分野での問題解決策について具体的な質問がなされ質疑応答が行われました。さらに、フロアからも各テーマの発表について、日本人のメンタリティや日本の社会構造の変化に至る広範囲の質問がありました。

シンポジウムの出席者は発表者を含めて約30名程度で、当初想定していた参加者数よりは少なく、個々の発表が大変に充実していただけにやや残念でした。この理由としては、何らかの理由で本シンポジウムがプログラム上で Invited Symposium として表記されておらず、埋没してしまったことが挙げられます。さらに、あまりに日本に特化した内容であったために日本に関心を持っている研究者だけし

か参加しなかったことも考えられます。これらの反省にたち、次回オーストラリア・アメルボルンで2010年に開催される第27回国際応用心理学会では、国際共同研究などに焦点を当てて、他国の研究者との共同開催という形式も考えられると思います。

本シンポジウムは日本応用心理学会の理事会関係者及び会員の皆様のご指導、ご協力なくしては実現できなかったものであり、その支援に対して心より感謝の意を表したいと存じます。また、本企画は国際交流委員会の前委員長である長塚康弘先生が精力的に努力されて実現に至ったものであり、その努力に感謝を申し上げる次第です。

(帝塚山大学)

(2) ICAP・2006に参加して

松浦 常夫

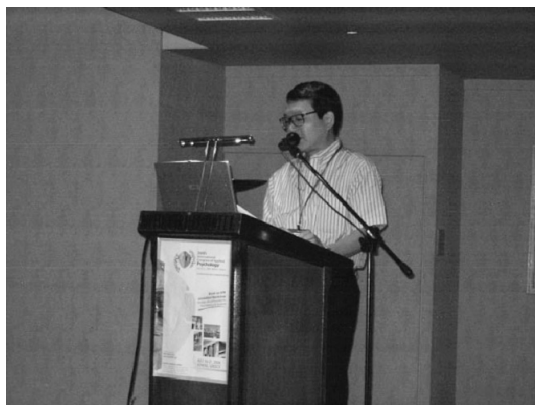
私にとって国際応心での発表は90年の京都大会、98年のサンフランシスコ大会、2002年のシンガポール大会に続く4回目で、国際学会としては国際交通運輸心理学会議 (ICTTP) と並んで力を注いでいる学会である。

今回はオーラル発表に落選してポスター発表だったため、またギリシャという2度と行けないような観光地での学会ということから、比較的気楽に参加することができた。しかし、いざ学会となるとやはり準備は大変で、大学の授業と試験を早々と済ませ、学会出席前の5日間を慣れない英語ポスターの作成に費やし、初日の発表の間際まで発表の要点のメモ書きに追われてしまった。

今回のポスター発表は同じテーマの発表を数件集



アテネ学会での打ち合わせの様子



シンポジウムでの発表 (藤森立男氏)



イドラ島のレストラン (松浦氏撮影)

めて、1つのブースの中でポスターを掲示する点と、掲示後にまず発表者が口頭でポスターを数分説明するという点が新しい趣向であった。私の場合は要約のメモを手に取りながらポスターの内容を発表したが、パワーポイントを用いた発表より大変であった。私のブースも含めて交通心理学関係のブースは狭く、観衆が多く、おまけに立ちっぱなしであったので、発表者も聴講者も汗だくであった。

ところでアテネはアジア的な雰囲気を持つヨーロッパという感じで、リスボンと似ていた。ただし、観光地としての魅力はリスボン以上かもしれない。特にエーゲ海の島での半日の滞在は良い思い出となった。

(実践女子大学)

国際交流委員会からの連絡

下記の国際会議が近年中に開催されますので、関心のある方は、各々の会議用ホームページをご覧ください。

- 1) 10th European Congress of Psychology
3-6 July 2007 Prague-Czech Republic
第10回ヨーロッパ心理学会、2007年7月3日～6日
チェコ共和国プラハにて
<http://ecp2007.com>
E-mail: Info@ecp2007.com
- 2) 29th International Congress of Psychology
20-25 July 2008 Berlin Germany
第29回国際心理学会、2008年7月20日～25日
ドイツ連邦共和国ベルリンにて
<http://icp2008.org>
E-mail: info@icp2008.org
- 3) 27th International Congress of Applied Psychology
11-16 July 2010 Melbourne Australia
第27回国際応用心理学会 2010年7月11日～16日
オーストラリア メルボルンにて
<http://icap2010.com>

各委員会の今期活動方針

(1) 機関誌編集委員会

委員長 藤田 圭一

1. 機関誌編集委員会は、2006年度から3年間、以下のメンバーで編集作業を行います。
委員長 藤田圭一 (日本体育大学)
委員 田中真介 (京都大学)
委員 谷口泰富 (駒澤大学)
委員 所 正文 (国士舘大学)
委員 外島 裕 (日本大学) (ABC順)
2. 本学会機関誌「応用心理学研究」は現在、年間2号を発行しています。機関誌は会員の皆様の投稿によって成り立っています。投稿論文は常時受け付けていますので、下記宛にふるって投稿してください。
3. 機関誌には邦文のほか英語投稿も可能ですが、今後どのような投稿・執筆方法をとるのかについて編集委員会で検討しています。また、従来から機関誌に掲載されてきた論文形態(原著論文、資料論文など)のほかに、新しい論文形態による投稿のあり方を編集委員会で検討してい

ます。いずれも、詳細が決定しましたら「ニュースレター」等でお知らせします。

4. 本年7月、アテネで第26回国際応用心理学会議が開催されました。来年度、機関誌に英語論文特別号を予定しています。投稿資格は上記会議に参加(発表)した会員に限りませんが、ファーストオーサーが会員であれば、連名者は会員でなくてもかまいません。投稿方法につきましては、同封の「お知らせ」をご覧ください。
【投稿先】〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1
日本体育大学教職教育II研究室 日本応用心理学会「機関誌編集」事務局宛
電話 & FAX 03-5706-0924
E-mail: sfujita@nittai.ac.jp (日本体育大学)

(2) 企画委員会

委員長 内藤 哲雄

企画委員会は、新体制への移行による常任理事の

定数削減への対処として研修委員会とシンポジウム委員会を合併するとともに、学会による研修・研究活動を総合的に企画推進することを目的として、2006年4月に設置されました。これまで多くの成果を上げてきた研修会とシンポジウムにつきましては、従前どおり開催していく方針です。

本年度の研修については、すでに第73回大会(文京学院大学)において、「労務管理に関する職場情報のとらえ方」(講師:松蔭大学・越河六郎氏)と「『個』の独自性に迫るアセスメント」(講師:信州大学・内藤哲雄氏)の二つが実施されました。後者の方の講師は、企画委員長の私ですが、自作自演ではなく、当委員会の設置が構想される前に研修委員会で決定していました。企画委員会の設置と委員長就任が事前に決まっていればお断りできたのですが…(笑)。本年度のシンポジウムについてはこれから企画を開始しますが、従来と同様に公開とし、その内容を機関誌の応用心理学研究に掲載します。

今後の本委員会の活動についてですが、「研修」については、会員にとってさらに魅力的な研修内容にしていくこと、講義形式だけでなく、実習形式なども検討していきたいと思えます。「シンポジウム」については、国際交流委員会と連携してということでしょうが、日本滞在中の海外研究者に参加をお願いすることも考えられます。新たな形式の企画としては、学会大会とは独立しての国内外の著名な研究者や実務家による講演も考えられます。また、学会設立70周年記念として事典が編集されましたが、学会編集の出版企画についても検討したいと考えております。

(信州大学)

(3) 広報委員会

委員長 所 正文

本委員会は、今期の運営を松田浩平(文京学院大学)、松浦常夫(実践女子大学)、そして所正文の3名で行って参ります。本学会の最新の活動内容を皆さまにぜひお知らせいたし、本学会の活性化へ向けて活動して参りたいと存じます。

これまでの本委員会の活動は、年2回ほど発行する「ニュースレター」の編集作業に限られていたと言えます。本学会の広範な活動を紙面を通じて分かりやすく伝えることは大変重要であるため、「ニュースレター」の編集業務につきましては、紙面

の充実を図り、引き続き努力を続けて参ります。

従来型の活動に加えて、今後はIT時代に呼応したウェブサイト上での広報活動も重要になると言えます。こうした活動が展開されれば、学会員のみならず、広く社会全体の人に本学会の活動を知ってもらうことが可能になります。これまでは本学会のホームページの維持管理を学会事務局が担当されておりましたが、今期のスタート時に理事長、副理事長から「学会ホームページの充実を今期からは広報委員会の中心的な活動としてお願いしたい」と指示されております。本委員会がこうした重要な役割を担うことになり、責任の重さを実感いたしております。学会ホームページの充実は、本学会の発展のために不可欠な業務であるため、我々にはできる限りの努力をしていきたいと考えております。

現在は、日本の心理学諸学会サイト(http://www.psych.or.jp/o_relation/link_japan.html)を閲覧しながら、本学会の新しいホームページのコンテンツを検討している段階です。学会員の皆さまからのご意見を広く拝聴していきたいと考えておりますので、建設的なご意見、ご提案を学会事務局、もしくは以下の広報委員長メールアドレスまでお知らせいただけますとありがたいです。よろしく願いいたします。

【連絡先】 E-mail: tokoro@kokushikan.ac.jp

所 正文
(国士舘大学)

(4) 国際交流委員会

委員長 蓮花 一己

長塚康弘先生の後任として、国際交流委員長を今期務めさせて頂くことになりました。本委員会では、国際学会、とくに国際応用心理学会(ICAP)へのシンポジウム参加を中心にして、これまで活動を推進してきました。とりわけ、前回のシンガポールでの学会に引き続いて、本年7月にギリシャアテネで開催された第26回国際応用心理学会に際して、日本応用心理学会からのInvited Symposiumを実施し、別に報告したように、有益な国際交流が図れたと思います。

本委員会の重点活動として、第一に国際学会についての会員への情報提供、第二に、国際学会へのシンポジウム参加、第三に、海外研究者との相互訪問の支援を検討しています。予算的な制約はあります

が、国際学会での企画シンポジウムだけでなく、今後は、海外からの外国人研究者の日本招聘や学会参加も促進できればと考えています。とくに、日本で研究の活発な分野、例えば、災害時の被害者支援やいじめに代表される教育問題などを選んで、海外から日本訪問を希望する研究者を見出して、彼らの日本訪問を支援する方策を検討すべきであると思います。また、日本から海外に向けての情報発信を活性化するためには、英文論文の学会誌『応用心理学研究』への投稿を奨励する必要があります。今回、アテネのICAPでの発表に基づいた英文論文による特集号を編集委員会と協力して発行する計画です。学会参加、情報発信や相互訪問という地道な努力を通じて、今後は、応用心理分野での日本と海外のより充実した国際ネットワークを構築しなければなりません。

海外との持続的なネットワークづくりには、各分野で活躍されている数多くの会員の皆様の協力が不可欠です。応用心理学会の諸分野の方々で知見と関心を共有する会員の皆様に支援をお願いして、本委員会として、微力ながら、本会の国際交流の活性化をめざす所存ですのでよろしくお願い申し上げます。

(帝塚山大学)

(5) 若手研究者支援委員会

委員長 田之内厚三

昨年の第72回大会(福島学院大学)での会員総会で、若手研究者の発表・参加を促す様々な支援策が承認され、今年第73回大会(文京学院大学)より、これらの支援が実施されることになりました。その間、支援策を広く会員に周知させるため、本委員会では、以下のような広報活動を展開してきました。

1. 学会のホームページに掲載
2. 平成17年9月26日付けのニュースレター(No. 13)の末尾で囲み記事で紹介
3. 「日本応用心理学会第73回大会案内(第1号大会通信)」の中に、ページ色のチラシ1枚を同封し、支援策を紹介
4. 『応用心理学研究、第31巻、第2号』(平成18年3月発行)に「事務局だより」という形で支援策を掲載
5. 『日本応用心理学会第73回大会プログラム』の

中に「若手研究者支援委員会(日本応用心理学会事務局)からのお知らせ」ということで、とくに非会員(学部生・院生)の大会当日参加・特別優遇措置について掲載し、多数の非会員の参加を募りました

この結果、第73回大会での各種支援は次のとおりでした。

1. 院生が責任発表者での発表費全額補助 21件
2. 自主シンポジウム等の各種企画における企画責任者への支援 0件
3. 非会員(学部生・院生)の大会当日参加・特別優遇措置 9件

以上、初めての支援策は、院生の発表数の増加にはつながったと考えておりますが、他の支援では効果はもう一つであったと反省しております。今後は、どのようなPRを展開していくか、本委員会および常任理事会の中でさらに検討していきます。

また、例年若手研究者の懇親会参加が極めて少ないのが実情です。懇親会で色々な年代の会員と交流を深めることも学会の大きな目的の一つであるため、どのような形にすれば若い人たちが懇親会に多く参加できるか、若手研究者支援委員会の今後の課題として検討していきます。今後もニュースレターや各種配布物を利用して支援策のPRに努めていきますので、会員の皆様もそれらにはしっかり目を通してくださいをお願いいたします。

(麻布大学)

(6) 学会賞・奨励賞選考委員会

委員長 荻野 七重

日本応用心理学会の学会賞・奨励賞は、理事および名誉会員の推薦をもとに、学会賞・奨励賞選考委員会による第1次選考と、常任理事会による第2次選考を経て決定されます。しかし、残念なことです。2006年度「日本応用心理学会 学会賞・奨励賞」は推薦が得られず、該当者なしとなりました。

本学会の学会賞・奨励賞が設置されてから、2006年度は丁度10年になりますが、学会賞については昨年から、奨励賞については一昨年から該当者なしの状態が続いています。そのため、常任理事会では、学会賞・奨励賞選考委員会を中心に、選考規程とその細則の見直しが必要であるという判断に立ち、学会賞・奨励賞選考委員会規程と合わせて、選考規程の見直しを行うことになりました。現在検討

中の新しい案は、学会賞と奨励賞という 2 種類の賞を、学会賞に一本化し、論文部門と実践活動部門の 2 部門のそれぞれについて、受賞者を選考するというものです。できるだけ早期に改訂案をお示しいと考えています。

(白梅短期大学)

(7) 応用心理士認定委員会

委員長 浮谷 秀一

この委員会は、認定「応用心理士」取得を目指して申請してきた会員の認定業務をする委員会です。申請受付期間は、前期が毎年 4 月 1 日から 5 月末日

まで、後期が毎年 10 月 1 日から 11 月末日までであり、この期間に申請された書類をそれぞれの期間終了後に認定審査委員会を開催して認定の可否について検討しています。

今年度は、資格申請の手引きを作り直し、会員の皆様全員にお送りいたします。この機会にぜひ認定「応用心理士」を取得されることをお勧めいたします。また、すでに取得されている会員の方は、身近な会員に資格取得をお勧めください。

参考までに認定「応用心理士」の資格要件を記載しておきます。

(東京富士大学)

認定「応用心理士」の資格要件

基礎条件として、本学会に入会後満 2 年を経過し、現在会員であることが必要です。

さらに、次の (1) から (4) のいずれか 1 つに該当し、応用心理学の専門職として資質があると認められた人に認定されます。なお、(1) から (4) のいずれの要件も完全に満たすことができない場合は、該当内容を総合し、判断されます。

- (1) 学校教育法に定められた大学において、心理学専攻またはこれに準ずる学科を卒業した人。学位授与機構の審査により学士の学位を授与された人も含まれます。
- (2) 本学会機関誌『応用心理学研究』に 1 件以上の研究論文（共著も含む）を発表した人、または本学会の年次大会において 2 件以上の研究発表（単独発表または責任発表のもの）をした人。
- (3) 認定審査委員会が応用心理学と関係があると認めた専門職で、3 年以上の経験を有する人。
- (4) 応用心理学と関係ある職で 3 年以上の経験を有し、本学会企画委員会企画の「研修会」に 5 回以上参加した人。（申請時に 5 回分の「受講証明書」を添付してください。）

事務局だより

本年度文京学院大学において開催された日本応用心理学会第 73 回大会（柏木恵子大会委員長）の総会において、下記のことが審議・承認されましたのでお知らせいたします。

1. 終身会員制度の新設による会則変更の件

現在、当学会は正会員、名誉会員、賛助会員および学生会員で構成されていますが、それに加えて、終身会員を加えたいという提案をさせていただき、承認されました。それに伴い、下記のように会則第 4 条が改正になりました（下線部分）。

第 4 条 本会の会員は、正会員、名誉会員、賛助会員、および学生会員とする。

本学会に入会しようとする者は、正会員および名誉会員の推薦により所定の手続きを経て、常任理事会の承認を得ることとする。

2 正会員の入会資格は、次のとおりとする。

(1) 四年制以上の大学で心理学およびその隣接分野を専攻した者

(2) 第 1 号に準じる者

正会員の会費は年額 6,000 円とする。

3 名誉会員は、本会のために著しい功績があった正会員で、理事会の議を経て、総会の承認を得た者とする。なお、名誉会員は会費を納める義務を有しない。

4 終身会員は、次のいずれか 1 つに該当し、本人の申し出により常任理事会の承認を得たものとする。

(1) 満 71 歳以上、かつ正会員在籍年数 30 年以上の正会員

(2) 満 71 歳以上、かつ認定「応用心理士」取得後 10 年以上経過した者

なお、終身会員は会費を納める義務を有しない。

- 5 賛助会員は本会の事業に賛同し、理事会の承認を経て、所定の会費をもって本会の事業に財政的援助をする者とする。

賛助会員の会費は、年額1万円以上とする。

- 6 学生会員は、四年制以上の大学で、心理学およびその隣接分野を専攻している4年次以上の学部在籍中の学生とする。

学生会員である者が、正会員として入会を希望する場合は改めて入会の申請を必要とする。

学生会員は、正会員の連名者として本学会大会の発表者となることができる。

学生会員は、正会員と同様に機関誌、ニュースレター等の配布、会務連絡を受けることができるが、応用心理学研究掲載諸報告の連名者となることはできない。

また本会の業務に関する選挙権、被選挙権を有しない。

学生会員の会費は正会員の2分の1とする。

(中略)

- 付則 1 本会則は平成12年9月9日より実施する。
- 2 本会則は平成14年9月8日より改正施行する。ただし、新役員の就任は平成15年4月1日とする。
- 3 本会則は平成17年9月4日より改正施行する。
- 4 本会則は平成18年9月10日より改正施行する。

2. 役員選出・選挙規程の改正の件

昨年度、総会において承認された役員選出・選挙規程に基づいて選挙を実施いたしました。その選挙全体を見直し、より会員の意思が反映されるような役員選出・選挙規程改正案を作成しました。その改正案が承認されました。

主な改正点は、常任理事選挙の投票を3名連記か

ら15名連記にしたことです。そのほか、内容に影響がないいくつかの文言を修正したことです。

3. 第75回大会開催校に関する件

2008年度の第75回大会を、藤森立男先生を大会委員長として横浜国立大学において開催することが承認されました。

2007年度の第74回大会は、帝塚山大学(蓮花一己大会委員長)で開催されます。

4. 新役員・事務局体制について

2006年4月1日から2009年3月31日まで下記のような新役員・事務局体制で学会が運営されます。

理事長：岡村一成 副理事長：荻野七重

理事

井上孝代、浮谷秀一*、尾入正哲、大橋信夫*、大淵憲一、小野浩一、垣本由紀子*、嘉部和夫、鎌形みや子、川本利恵子、桐生正幸、大坊郁夫、高石光一、田中真介、谷口泰富、田之内厚三*、所正文*、外島裕*、豊村和真、内藤哲雄*、馬場房子、藤田主一*、星野仁彦、細江達郎、松浦常夫*、松下由美子、松田浩平*、三戸秀樹、南隆男*、向井希宏*、森下高治、森脇保彦、蓮花一己*

(50音順、*は常任理事)

監事：藤森立男、玉井寛

事務局長：浮谷秀一 事務局幹事：伊波和恵

委員会(◎は委員長)

機関誌編集委員会

◎藤田主一、外島裕、所正文、田中真介、谷口泰富

企画委員会(旧シンポジウム委員会と旧研修委員会が合併)

◎内藤哲雄、藤田主一、外島裕、向井希宏、井上孝代、大坊郁夫

広報委員会

◎所正文、松浦常夫、松田浩平

認定「応用心理士」認定審査委員会

◎浮谷秀一、田之内厚三、馬場房子、細江達郎、森脇保彦

国際交流委員会

◎蓮花一己、内藤哲雄、垣本由紀子、松浦常夫、松田浩平

若手研究者支援委員会

◎田之内厚三、森下高治、川本利恵子、高石光
一、田中真介

学会賞・奨励賞選考委員会

◎荻野七重、藤田圭一、浮谷秀一、垣本由紀子、
小野浩一

倫理委員会

◎荻野七重、大橋信夫、南隆男、蓮花一己、星
野仁彦、細江達郎

日本心理学諸学会連合理事：岡村一成、垣本由紀子

・日本応用心理学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株)国際文献印刷社内

Tel: 03-5389-6491 Fax: 03-3368-2822

E-mail: jaap-post@bunken.co.jp

学会ホームページ <http://www.soc.nii.ac.jp/jaap/>

・日本応用心理学会「機関誌編集」事務局

藤田圭一

〒158-8508 東京都世田谷区深沢 7-1-1 日本
体育大学教職教育 II 研究室内

Tel & Fax: 03-5706-0924

E-mail: sfujita@nittai.ac.jp

・日本応用心理学会認定「応用心理士」事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-1 東京
富士大学応用心理学研究室内

Fax: 03-5386-3456 E-mail: ukiya@fuji.ac.jp

編集後記

新体制発足後の第1号ニュースレターをようやく
会員の皆さまのお手元にお届けすることができま
す。大変お待たせいたしました。その間、文京学院
大学にて第73回大会が開催されました。4年に一
度の国際応用心理学会もアテネで行われ、本学会会
員をはじめとした多くの日本人研究者が参加いた
しました。

応用心理学の守備範囲は非常に広く、様々な領域
の研究者が本学会には所属しております。ニュー
スレターでは、そうした会員の皆さまの研究に役に立
つ記事を組み立てて、皆さまにご案内していきたい
と考えております。そして、若い研究者がどんどん
国際学会へと雄飛できるように情報提供を中心とし
たサポートに努めて参りたいと存じます。引き続
き、ご支援のほどよろしく願いいたします。

(所 正文)

訃報

本学名誉会員の花沢成一先生が2006年10月3日に、同じく名誉会員の田中富士夫先生が2006年10月21日にそれぞれ逝去されました。両先生による生前の本学会へのご貢献に感謝するとともに、謹んでお悔やみ申し上げます。

発行 広報委員会

委員長 所 正文

日本応用心理学会事務局

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 4-4-19

(株)国際文献印刷社内

電話 03-5389-6491 FAX 03-3368-2822